146) *Russula neoemetica* ドクベニダマシ (新称)。ドクベニタケ *R. emetica* に外観が類似しているが，辛味がなく，また胞子の表面の模様が異なっている。また白色の胞子紋を有する点で *R. pseudointegra* と区別される。大津市内各所で採集した。

147) *Lactarius castanopsidis* ヒカゲヒメチチタケ (新称)。シイ林に発生する小形，かっ色のチチタケ類で，胞子の表面の模様が特徴的である。大津市国分の神社境内で採った。

□刈米達夫・小林義雄著： **有毒植物・有毒キノコ** A5版．口絵カラー 32 pp. 白黒挿図入総頁索引共 109 pp. 1979. 広川書店，東京． ¥3,500. 高等植物82，キノコ20。高等植物は，一生を薬用植物に費した刈米氏が受け持ち，キノコは，我国キノコの大家であり，かつ国際キノコ学会の副会長である小林氏が担当したもので，この種の編集刊行物では，これだけ組合せたのは興味あるものである。従って，読者には重宝で，刈米氏の努力もさることながら，小林氏の分担で本書の価値は一層増したこともいうまでもない。　(久内清孝)

附記： 有毒植物 p. 53 下の写真はタガラシ (?) で本文と関係なく，第 2 版で入替える。汗顔の至り (著者)

□近田文弘 (編)： **南アルプスの森林植生** 44 pp. 大型地図11枚. 1979. 静岡大学理学部生物学教室. ¥5,000. 送料¥300. わが国最大の山岳地帯の一つ南アルプスは，広大な原生林が残されていることでも有名である。静岡大学ではこの山岳地帯の自然環境を解明すべく，各分野の研究を推進してきた。そのうち森林植生については農学部斎藤全生，理学部近田文弘の両氏が，1971年から 3 か年間，科研費特定研究「人間の生存と自然環境」の中の「南アルプス及び隣接地域の森林植生図」を分担し，続いで静岡県の「南アルプス奥大井地域学術調査」に参加，さらに1976年から3か年特定研究「南アルプスの自然環境と生物相の動態」の調査を行なった。この報告書はそれらの成果を公表したものである。内容はまず近田：「自然環境の概略」があり，次いで斎藤・近田：「森林植生の樹種別密度分布による解析」がある。これは 5 万分一地形図に添刷した森林現況図 1 枚と，同じく樹種別密度分布図 9 枚とが付属している。前者には原生林，天然生林 (伐採年によって 6 段階に区別)，伐採地，植林，裸地に区分した記入があり，後者にはシラビソ (オオシラビソを含む)，コメツガ (ツガも)，カラマツ，サワラ，ヒメコマツ，モミ (ウラジロモミも)，ミズナラ，ブナ，ダケカンバの 9 樹種それぞれ3～12段階の密度に分けて分布を示してあり，いずれも1971～1973年の調査によるものである。第 3 の内容は近田・草加伸吾：「南部寸又川流域における森林植生の概要」で，2.5万分一地形図にシラビソ林，モミツガ林，混交林，天然生林，落葉広葉樹林，植林地，伐採跡地，崩壊地，笹原の 9 区分が添刷され，本文にその説明があり，これは 1977 年の調査結果である。広大な南アルプスの森林植生を明らかにしたこの成果はまことに大きいものである。　(伊藤　洋)